

令和5年度第1回・第2回佐賀県建設工事入札審査会 会議結果

開催日時	令和5年10月27日(金)13時30分から15時40分まで										
開催場所	公益財団法人佐賀県建設技術支援機構本所3階研修室 (佐賀市鍋島町大字森田912番地)										
出席者	(委員) 深川委員、赤星委員、東島委員、倉富委員 (事務局) 建設・技術課長 他5名 (審査対象機関) 佐賀土木事務所 東部土木事務所 唐津土木事務所 杵藤土木事務所 ダム管理事務所 有明海沿岸道路整備事務所 佐賀中部農林事務所 危機管理防災課 SAGA2024 施設調整チーム 入札・検査センター										
会議の公開 ・非公開	公開(ただし、自己採点型以外の総合評価落札方式による入札案件の個別評価点に係る審査については、非公開)										
非公開理由	自己採点型以外の総合評価落札方式による入札を行った案件の個別評価点(評価の内訳)については、個別企業の技術者に係る個人情報や企業独自の技術的情報が含まれるため。										
会議概要	<p>審査対象期間(令和5年1月1日～令和5年7月31日)に契約した3,500万円以上の工事229件の中から、委員が抽出した18件の工事について審査</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">抽出案件</th> <th>18件(5件)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">内 訳</td> <td>一般競争入札</td> <td>0件(-)</td> </tr> <tr> <td>条件付一般競争入札</td> <td>16件(5件)</td> </tr> <tr> <td>随意契約</td> <td>2件(-)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※( )は、自己採点型以外の総合評価落札方式の件数</p>	抽出案件		18件(5件)	内 訳	一般競争入札	0件(-)	条件付一般競争入札	16件(5件)	随意契約	2件(-)
抽出案件		18件(5件)									
内 訳	一般競争入札	0件(-)									
	条件付一般競争入札	16件(5件)									
	随意契約	2件(-)									

審議概要(案)

委員	県(○発注者、◆事務局)
<p><b>開会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合評価落札方式(自己採点型以外)による条件付一般競争入札の3案件の個別評価点(評価点の内訳)に係る審議等については、非公開とする。</li> </ul>	
<p>1 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 契約状況</li> <li>② 指名停止等の運用状況</li> </ul>	<p>◆配布資料により説明</p>
<p>2 審議事項</p> <p><b>資料番号 1-12 &lt;佐賀土木事務所&gt;</b>  <b>単河保全 第 9918040-004 号</b>  <b>巨勢川河川保全(プロジェクトIF)工事(河道掘削工)(0 県債)</b></p> <p><b>資料番号 1-13 &lt;佐賀土木事務所&gt;</b>  <b>単河保全 第 9918040-001号</b>  <b>今出川他河川保全(プロジェクトIF)工事(河道添削工)(0 県債)</b></p> <p><b>資料番号 2-16 &lt;佐賀土木事務所&gt;</b>  <b>広域河改 第 0611545-007 号</b>  <b>中通川河川整備交付金工事(堤防補強工)(令和4年度国2次補正)</b></p> <p>◎6 者参加で入札率 100%なのでそのいきさつをご説明いただきたい。          当期の「土木一式工事」の落札率は、入札者が1者であっても複数あっても100%というのが目立っている。その中で、本工事は入札者が6者もある、入札状況(評価も含めて)を確認したい。(1-12)</p> <p>◎同日入札の両類似工事。共に活発な入札状況であるが、落札率は100%であり、自己採点のみでの競争となっている。また、共に入札辞退者が出ている事情も確認させていただきたい。          やはり、人手不足?(1-13)</p>	<p>◎業者への聞き取りの結果、公告時点では手持ち工事が十分にあったが、当該工事は河道掘削ということで、利益を出しやすい工事であることや、原油高によるダンプ運搬費の高騰があり、100%の入札となったと考えられる。</p> <p>◎落札業者への聞き取りの結果、河道掘削で利益が出やすい工事であること、自己採点で、自社の配置技術者が高得点であったことや原油高に伴うダンプ運搬費の高騰により100%で入札となったのではないかと推測される。</p> <p>◎また、入札辞退業者への聞き取りの結果、予定していた技術者を配置できなくなったため辞退されたとのことである。</p>

<p>◎入札参加者数は6者であるが、落札率は100%で、競争が働いていない。落札率100%になった背景について伺いたい。(2-16)</p>	<p>○業者への聞き取りの結果、原油高に伴うコンクリート製品やダンプ運搬費の高騰や耕作地を借地して工事用道路として使用するため、耕作者との調整が必要であることなどの理由から100%で入札されたようである。</p>
<p>◎資材等でお金がかかるということだが、設計価格に入れているのか。</p> <p>◎ダンプの原油高はほかの業者にも通じる問題だと思うが、その中で落札率100%になる工事、100%にならない工事は何が違うのか。</p> <p>◎入札参加者6者で落札率100%は通常考えづらい。インフレが原因ということであれば県の設計価格に無理があったのではないかと。資材価格の見直しが必要ではないか。</p>	<p>○入れている。</p> <p>◆それぞれの工事の内容や現場条件等で違ってきているとは思いますが、はっきりとした原因は不明である。河道掘削はダンプの占める割合が多いため、影響が大きかったと考えられる。また、コンクリート製品は資材の中でも原油の影響をかなり受けている。</p> <p>◆資材については例年4回単価の改定をしているが、資材の高騰に伴う県の対応として、昨年度の下半期から毎月市場の価格調査をして単価の改定をしており、予定価格に速やかに反映できるよう努めている。</p>
<p><b>資料番号 1-8 &lt;東部土木事務所&gt;</b></p>	
<p><b>大特河川 第 0610300-005 号西田川大規模特定河川工事(橋梁上部工)</b></p>	
<p>◎入札参加者数が1者で、落札率も100%であるが、その背景として何が考えられるか。</p>	<p>○今回の橋梁上部工の主桁は、工場で製作した3分割のコンクリート桁を現場で1本に連結して架設するポストテンション工法であることから、桁の連結における品質確保が重要な工事で、県内で施工実績を有する業者が少ない状況である。また、前年度に今回工事の上流側の橋梁工事も同業者が受注した実績があるためと考えられる。</p>
<p>◎県内で実績があるのは何者か。</p> <p>◎1者のみということはその1者しか落札できないのでは。</p> <p>◎競争性を高めるために、管内業者や県内業者に絞らず幅広く受け入れるのは難しいのか。</p> <p>◎必然的に競争が働かないということになるのか。</p>	<p>○管内には1者のみ。</p> <p>○県内の別の事務所管内には、他に実績を持つ業者はいる。本入札の時点では、東部管内において実績を持つ業者が1者しかいなかったということ。</p> <p>○今の基準では、まず県内の業者に公告することになっており、応札者がいない場合に地域要件を広げていくことになっている。</p> <p>○この経験を踏まえ、できる限りこういった特殊工事については同時発注するようにしている。そうすることで、取り抜け設定もできるため、より競争性を高めることができると考えている。</p>

**資料番号 2-105 <唐津土木事務所>**

**道整交金 第 1111323-002 号**

**国道323号道路整備交付金工事(護岸工)**

◎入札参加者が一定数いるが、同じ業者が落札している。同じ工事である番号 104 と入札が分かれている理由と併せて入札経緯を確認したい。

○道路を河川側に拡幅のため、隣接する河川を付け替える工事であり、出水期は河川内の工事ができないことから、非出水期に(10 月から)施工することとなる。どうしても工期が限られること、工事の規模が 1 億円程度のため、1 本で発注すると 1 年以上工期がかかることを考慮して 2 本に分割して発注している。

○最終入札者は 5 者あり、結果的に 105・104 の両工事とも最も評価値が優れていた業者が同じだったと考えている。施行能力から同時施行が可能と考えての結果なので、入札状況に問題があるとは考えていない。

◎この規模の工事 2 本同時に受注しても対応できる余裕がこの会者にはあったということか。

○その通り。

◎予定価格 92,410,000 円に対して、落札者以外の業者は 92,000,000 円前後で札を入れている。本落札者だけが他の業者より 150 万円ほど低く入札することができたのはなぜか。

○落札者はこの金額でも十分に利益を出せると思われた結果だと思う。

**資料番号 1-36 <杵藤土木事務所>**

**総合流防 第 0699020-006 号**

**塩田川総合流域防災工事(法尻補強工)(令和4年度国2次補正)**

◎入札参加者が少なく、落札率が高止まりしている理由を確認したい。(No.38、48 も同じ工事ですが、金額が大きい No.36 を選択)

○当該工事においては、入札参加応募者数は 8 者だったが 7 者が辞退している。辞退した業者に確認したところ、「大型補正などにより工事発注が集中し、また昨年度からの手持ち工事等もある中、技術者及び労働者不足の傾向にあったため」との回答があった。

落札率が高くなった理由について、落札業者へ確認したところ、当該工事は河川堤防補強工事として一方からの工事であり、やりにくく、通常より経費が膨らみ利益が出にくい工事であったことから、落札額を高く設定したとの回答があった。

◎大型補正予算の影響はどのようなものか。

○令和 3 年度の大型補正予算が次の補正と工期が重なっていたことや、令和 3 年度の災害工事が続いていることもあり、本入札時は技術者が不足していたが、本工事は補正予算の工事ということもあり、発注の時期が限られており、早い時期に発注をかけるしかなかった。その中で、技術者を配置できる業者が 1 者あったということはポジティブにとらえている。

**資料番号 1-57 <杵藤土木事務所>**

**河川激特 第 0611302-001 号**

**広田川河川激甚災害対策特別緊急工事(除塵機設備)(令和4年度国2次補正)**

◎契約金額が大きいにもかかわらず、入札参加者数が1者であり、落札率も高い。その背景として何が考えられるか。

○本工事は排水機場新設に伴う機械器具(除塵機)設置工事という特殊な工事であり、一般的な土木工事と比較すると工事発注件数も少ない。排水場を新規に作るか、修繕をするときにしか出てこない工事である。同種工事の施工実績やノウハウを有する会社や技術者も限られる。今回辞退された業者や、参加しなかった業者に話を聞いたところ、新型コロナウイルスの影響で、本工事で使用するモーターや操作制御装置等に使用する電子部品関係については納期の見通しが立ちづらく、その他の資材なども価格が上昇傾向にあったことが主な背景にあったとのことである。

工事の発注にあたっては、関係法令や基準等に基づき適切に積算を行うとともに、適期の発注や余裕工期の設定など、競争性の確保につながるよう取り組んでいく。

◎こういった特殊工事で、今後競争が働きやすくなるために考えられる改善策はあるか。

○今回の工事は、佐賀県内に本店・支店・営業所がある業者であれば、県内業者に限らず入札に参加できるようにした。しかし、全国規模の会社は、遠方での工事ということで利益が上がらないということ、また、佐賀は排水場の数が全国一位で、実績を持っている会社が佐賀に多いことから、間口は広げたものの1者になってしまった。

**資料番号 1-54 <ダム管理事務所>**

**ダム補助 第 1109900-009 号**

**横竹ダムダムメンテナンス工事(放流設備)(令和4年度国2次補正)**

**資料番号 1-56 <ダム管理事務所>**

**ダム補助 第 1109900-008 号**

**横竹ダムダムメンテナンス工事(取水設備)(令和4年度国2次補正)**

◎両工事とも入札参加者が2者で、落札率が高止まりしている。また落札業者も同じたため、入札経緯を確認したい。

○入札参加者が2者と少なかったことについて応札者に聞いたところでは、補正予算であったため年度末に近い時期の入札となったことから、その時期に対応できる技術者が少なかったようである。

○今回は、両工事とも特殊な工事であったため、予定価格の積算に当たっては、5者(6者へ依頼、1者辞退)から見積もりを徴取し、その見積もりの平均直下となる見積額を積算歩掛として採用している。

○資料番号54の工事の見積額は、平均値に対して最も安価な見積額で97.4%(-2.6%)、高価な見積額で101.6%(+1.6%)となっており、同様に資料番号56の工事でも97.8%(-2.2%)と102.6%(+2.6%)となっている(平均値に対して±3%以内となっている)。

○このため、落札率が高い原因としては、見積の平均直下の見積もりをベースに予定価格を設定しているため、応札額が見積額に近いものとなり、結果的に落札率が高くなっていると考えられる。なお、両工事を落札した業者が提出して

	<p>いた見積額は、平均値よりも高い額であった。</p> <p>○予算の配分時期にもよるが、今後は年度当初等入札参加が可能と思われる時期に発注していく。</p>
<p>◎見積りを依頼する 6 者はどのように決めているのか。</p> <p>◎入札参加資格を満たす会社が今後新しく増えることは見込まれるのか。</p> <p>◎工事を分けて発注しているが、別々の業者がとって問題ない工事なのか。</p>	<p>○県内で入札参加資格を満たす業者 6 者に見積依頼をした。</p> <p>○県内に資格を満たす業者がいる中で、県としても県内の業者に取ってもらいたいという思いもあり、対象を広げたくても広げきれない。</p> <p>○問題ない。</p>
<p><b>資料番号 2-42 &lt;有明海沿岸道路整備事務所&gt;</b>  <b>道改 2B 第 2110208-004 号</b>  <b>国道 208 号道路改良(国道)(2B)工事(道路改良工)(令和 4 年度国 2 次補正)</b></p>	
<p>◎応募者数・入札参加者が多く、入札率も妥当な金額に収まっている。近年応募者数が少なくなっているにも関わらず、多い理由を教えてください。</p> <p>◎入札日が同日の有明沿岸道路の工事が 13 件ある。落札率はほぼ 92%であり、また、各工事とも入札者が多い。本工事がこの中では高額な工事であるので、19 者の入札状況を確認したい。</p>	<p>○地盤改良をして盛り土をするという道路改良工事は工事実績を持つ業者が多くいる。参加するハードルとしては高くなかったため多くの業者が参加していると考えられる。</p> <p>○住家等から離れている現場が多く、現場への工事用道路も確保されていることから、予定通りの工事進捗が見込めたことも要因と考えられる。</p> <p>○応募者数 19 者のうち、2 者が入札辞退となっており、1 者が同日開札の他工事落札のため資格喪失となっている。このため、最終入札参加者は 16 者となった。</p> <p>○入札金額は全社が県で設定している「低入札調査基準価格」の 124,788,182 円で行っており、その中で評価点(112)が最高であった 11 者でくじ引きを行い、落札者を決定している。</p>
<p>◎見積結果情報から予定価格を計算しやすい工事であったことがわかる。応募者数が多く落札率が低かったのはよかったと思う。</p> <p>◎非常に競争原理が働いている案件である。なぜこのような結果になったと思われるか。</p>	<p>○地盤改良工事は、実績もあり、工事用道路も確保されていることから、ある程度計算がしやすい工事であったと思われる。</p> <p>○同日の有明沿岸事務所の工事 13 件はほぼくじ引きで決まっている。ハードルが高くない工事のため、多くの業者がこの工事を取りに行きたいという気持ちで、札を入れてくださったと考えられる。</p>

資料番号 2-88 <佐賀中部農林事務所>

クリ防災 第 5319108-003 号

東与賀地区 県営クリーク防災機能保全対策事業工事(用排水路工)

(令和 4 年度国 2 次補正)

資料番号 2-89 <佐賀中部農林事務所>

クリ防災 第 5313118-004 号

川副地区 県営クリーク防災機能保全対策事業工事(用排水路工)

(令和 4 年度国 2 次補正)

- |   |   |
|---|---|
| <p>◎両工事とも、入札参加者は 4 者以上であるにもかかわらず、同一の業者が落札しており、落札率も 100%である。その背景について伺いたい。</p> <p>◎番号 76.88 の工事と同種、同時期の工事で、かつ入札参加者が一定数いるにもかかわらず、落札率はいずれも 100%で、落札業者も同じである。他の業者が落札できなかった理由や落札率が高止まりした理由を確認したい。(2-89)</p> | <p>○入札参加者は、東与賀地区が 5 者、川副地区が 4 者であり、すべての業者が落札率 100%で応札している。このため、技術評価点(企業の施工能力及び配置予定技術者の能力)により落札者を決定した。両工事とも技術評価点が最も高い同一の業者が落札者となった。</p> <p>○業者へ聞き取りを行った結果、主任技術者や監理技術者の確保が難しかったこと、下請けの確保に費用が掛かること、施工に必要な敷鉄板等の確保に係る費用がかかる工事だったとのこと。落札額を下げても受注する必要はないという経営者の判断から落札率が高止まりしたと推測される。</p> <p>○また、クリーク防災事業については、農地や宅地が近接する工事であり、苦情対応が多いため、地元に対応する高いスキルが求められることから敬遠されたのではないかとのお話も伺った。</p> |
| <p>◎4 者というのは想定より少なかったのか。</p> <p>◎特殊な工事だけでなく単純な工事までも落札率が高止まりしている。資材価格の高騰や技術者不足はすべての工事に共通する問題ということを踏まえて、適正な落札率になるようにどういったことをすればよいのか。</p> <p>◎辞退 2 者の理由は確認しているか。</p>                                     | <p>○少ないという印象はない。単純な工事だからこそ何者来てくれるのかというのは読めないところであり、極端な話、1 者しか応札者がいなかったということもある。</p> <p>○建設業に関する需給バランスの崩れが原因と推測する。業界が縮小している中で、技術者不足等を解消していくには中長期的に抜本的な改革が必要である。経営者と話す中、業界の先が見えない中で、技術者は増やせないという話もあった。労働環境の整備や、供給量の増加を進めていけば、必然的に競争率は上がっていくのではないかと推測する。</p> <p>◆配置技術者の兼任要件や手持ち工事の緩和を現在検討している。</p> <p>○事前に入札があった工事を取られたのではないかとと思われるが、業者に確認はしていない。</p>                              |

**資料番号 2-99 <危機管理防災課>**

**05 危防工第7号佐賀県防災行政通信主要回線ルート追加工事**

**資料番号 2-100 <危機管理防災課>**

**05 危防工第6号佐賀県防災行政衛星通信設備工事(西部地区)**

**資料番号 2-101 <危機管理防災課>**

**05 危防工第5号佐賀県防災行政衛星通信設備工事(東部地区)**

<p>◎いずれもJV 応札で高額、高落札率である。この種の通信設備工事において競争が働くようにする工夫が必要なのではないか。</p>	<p>○国を挙げて衛星通信の全国的に整備することが方針づけられているが、その関連工事である。自治体と消防本部に設置する工事が 100・101 の工事、設置後データのやり取りを行うための工事が 99 の工事である。</p> <p>○建物内での無線通信工事は一般的に普及しているが、離れた地区の無線通信工事は行政しか発注しないこともあり、経験している業者がほぼいない。そのため、本公告では、民間での工事実績も含めて入札を行った。</p> <p>○電気通信工事施工管理技士は、令和に入って初めてできた免許で取得者が非常に少ない。業者としては、本免許を取得して実績上げたいという思いで努力されている。県としても、技術者の実績と経験を増やしたいと、本工事を 3 つに分けて発注したが、結果的にJV の応札となってしまった。</p>
<p>◎セキュリティに関する工事とも言える。競争率を上げることを急がず、県民のためにも、きちんと国の試験を通過いただき、しっかりとしたセキュリティを構築してほしい。免許制度は令和に入ってからなのか。</p>	<p>○正式な免許ができたのは令和から。それまでは 15 年以上の実務経験を国に申請して免許を付与するとしていたが、取得者が増えなかったため、国が新たに試験制度を設けて、技術者を増やし、官民間問わず電気通信工事を進めていこうとしている。</p>

**資料番号 2-98 <SAGA2024 施設調整チーム>**

**国スポ整第 1500361-012 号**

**多久高校国スポ・全障スポ県有競技施設整備工事(管理施設工)**

<p>◎落札率が 100%というのは、今期において極少ない。本工事は、応募者が 5 者、入札者が 3 者である。入札状況を知りたい。</p>	<p>○当該工事は、学校敷地内における工事であり特に敷地内の学校関係者や学生の安全に配慮しながら実施する必要のある工事である。</p> <p>また、排水対策(側溝)、舗装、フェンスなどの多種にわたる工事で、並行して実施している建築工事と調整しながらの工事となる。</p> <p>応札者に聞き取りを行った結果、上記のように当該工事は建築物の工事との調整や特に学校敷地内の工事のため安全に配慮する必要が求められることが想定されたため、受注を敬遠した傾向が強かったようである。その結果、入札辞退者が出たり、落札率も高止まりしたものと想定される。</p>
--	---



**資料番号 随契 4 <佐賀土木事務所>**

**第 0701101-001 号**

**東与賀排水機場海岸メンテナンス工事(ポンプ設備)(令和4年度国2次補正)**

◎入札回数が「2 回」とあるが、その理由を知りたい。

○本工事は随意契約のため、「入札回数」ではなく「見積回数」となる。ポンプ随契では、随契前に公募を行うこととなっており、入札公告時、「近接調整対象工事」として「海メンテ第 0701100-001 号 東与賀排水機場海岸メンテナンス工事(ポンプ関連設備)」がある旨特記仕様書へ明示していたところであるが、業者への聞き取りの結果、近接工事の間接工事費等の調整を要することを失念し、1回目の見積価格が予定価格を上回ってしまったようである。再度見積もりを行ったため、見積回数が2回となった。

**資料番号 随契 5 <唐津土木事務所>**

**02年災第 0120033-001 号**

**唐津肥前線河川等災害復旧工事(擁壁工)(災害)**

◎特 A の土木工事(機器更新等ではない)を随契で発注する際の緊急性の判断基準についてご説明いただきたい。

○今回の工事は令和 2 年 8 月の豪雨により被災を受けた県道唐津肥前線(唐津市)の道路法面の復旧を行うものである。復旧工事については令和 3 年 4 月 15 日に岸本組と契約し、令和 5 年 3 月の完成を目途に復旧工事を進めていたところ、令和 4 年 8 月 24 日に法面の一部が崩落し、工事の継続が困難となった。

○その後、仮設計画を見直すなど復旧工法の変更を行い、引き続き工事を進めていたが、期限までの完成が見込めないことから、契約の内容について設計を変更し、契約の履行を打ち切ることとなった。

○今回の工事は、前回の打ち切りとなった残部分の工事を引き続き行うものであり、これまでの経緯や現場の状況を熟知し、工期短縮や経費的にも有利に工事が進行できる事業者である前回の工事業者と随意契約を行ったものである。

○令和 2 年 8 月から 3 年以上経過しており、片側通行が続いている。一日でも早く対面通行を開始しななければならぬため、緊急性を高く判断している。

○県の随意契約をする条件としても、前の工事を打ち切って新たに工事をする場合は、前の契約者と契約するほうが経済的・効率的で合理性があるとされている。